

(答弁者：農林水産課長)

ご質問にお答えします。

国が発表した資料によると2019年度の日本の温室効果ガス（GHG）の排出量は12.71億トン、その内、農林水産分野は4,949万トンで全排出量の3.9%となっています。

工場で製品を作ったり、その製品を消費者に運送したり、家庭で生活したり、そして畜産業を含む農業といった、私たちの社会経済活動で温室効果ガスが排出されます。温室効果ガスの削減は国際的にも重要な課題となっています。

現在、町で整備を進めている牧場はこの温室効果ガスの削減にも力を入れています。

場内で使用する電気の65%は牛の糞など排泄物からのメタンガスを利用して発電を行い、賄う予定です。

化石燃料で作られた電気をできるだけ使わないことで温室効果ガスの削減につながります。

また、米や野菜を生産する農地で使用する化学肥料を、牧場で産出するたい肥に置き換えることで、土壌からの温室効果ガスが削減できます。

さらに、質問にもありました牛のゲップにつきましては、国の研究機関や大学によりメタンガスの削減への研究が進められており、例えば牛のエサに混ぜて与えるとメタンガスの削減に効果のある様々なものが発見されており、ニュースになっています。

これらの研究成果を活用しながらメタンガス排出の削減に取り組む予定です。